

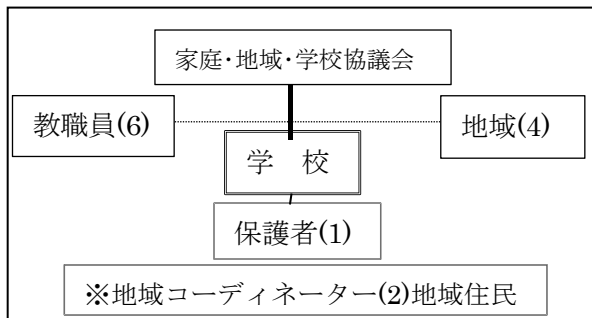
(様式1)

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール実施報告書

越前町立織田小学校 校長 駒野 千津美

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

回	期日	主な内容
1	5/10	・学校経営計画について ・学校評価について
2	9/13	・1学期の取組と児童の様子について意見交換
3	1/10	・年間学校評価報告
4	1/24	・本年度の取組について

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の一員として、よりよいまちづくりをめざして取り組む活動から、達成感や満足感を味わわせる。また、活動を通し、ふるさとを愛する心情や、まちづくりに対する関心・意欲を育む。

(2) 活動の実際

① おたっ子ウォークラリー

織田地区内の特産品、名所、施設などを訪問し、インタビューをしたり聞いたことを紹介したりしながら地区内の人とふれあい、地区の特色やよさ、人の温かさなどを知ることができた。

当日は、地域コーディネーターの方やボランティアの方に協力を得ながら行い、協力いただいた方々と一緒に活動することで、町並みの変化などの歴史的なことも聞くことができ、有意義な時を過ごすことができた。



② コスモス街道再生企画

学校前の通学道は「秋桜街道」と名付けられてはいるが、街路樹の下や沿道にコスモスは咲いていなかった。そこで、6年生を中心に、秋桜街道を再生させようと、種まきや除草、種取りを行った。地域の方からも「歩くのが楽しみになった」と好評であった。

取った種は、来年度以降も継続していけるよう、6年生から5年生へと引き継がれた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・地域の各機関や施設等と連絡を取っていただくとともに、ウォークラリーでは、ボランティアとして帯同していただいた。
- ・花の栽培以外にも、地域のボランティアの方を集め、学校園(畑)を耕していただいたり、野菜やキビなどを見守りと一緒に作っていただいたりしている。

(4) 特に工夫した事項

- ・地域の「人」とふれあう場を多く設け、積極的に話せる場を作った。

(5) 成果と課題

- ・児童は、自分たちの住んでいるところについて、案外知らないことが多く、訪ね歩くことで地域に対する興味や関心をもたせることができた。高学年では、まちづくりについて主体的に考えたり活動したりするようになった。
- ・マンネリ化しないために、場所、人、方法などを工夫し、楽しく活動できるよう考えたい。

(様式1)